

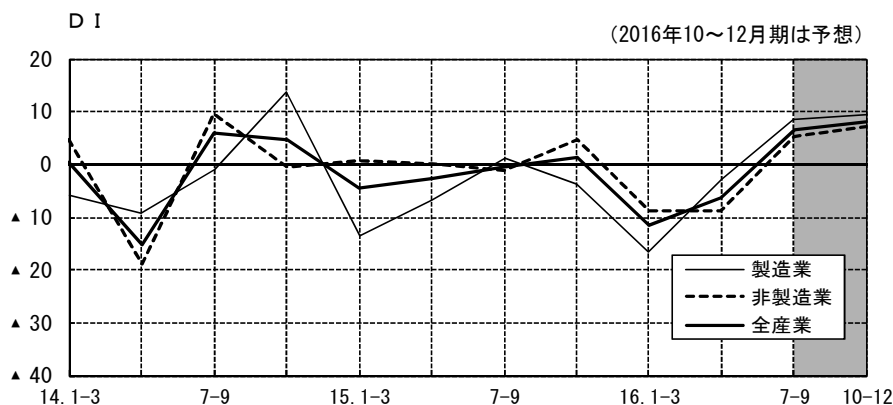
業況概要(自社)

～全産業、製造業、非製造業いずれもプラス水準に～

静岡県東部地域における2016年7～9月期の業況判断DI(対前期比)は、全産業で6.5(前期▲6.3)と改善し、2015年10～12月期以来のプラス水準となった。製造業は、金属製品でDIが前期比わずかに低下したが、食料品や一般機械器具で大幅に改善され、パルプ・紙・紙加工品も上昇傾向が続いていることから、全体のDIは8.6(前期▲2.7)と2014年10～12月期以来の高い水準となった。非製造業においても旅館・その他宿泊所や建設業でDIが大幅に改善されたため、全体で5.3(前期▲8.7)と上昇した。

2016年10～12月期の予想DI(今期比)は、全産業で8.0と小幅ながらさらに上昇を見込んでいる。業種別でも製造業で9.5、非製造業で7.1と同様の予想になっている。

《業況判断指数推移》



全産業DI

年	期	DI
14年	1-3	0.4
	4-6	▲15.2
	7-9	5.9
	10-12	4.7
15年	1-3	▲4.4
	4-6	▲2.6
	7-9	▲0.4
	10-12	1.5
16年	1-3	▲11.7
	4-6	▲6.3
	7-9	6.5
	10-12(予想)	8.0

DI: ディフュージョンインデックス(Diffusion Index)の略。

「上昇、増加、好転」した企業割合から「下降、減少、悪化」した企業割合を差し引いたもので、業況判断を見る指標です。

《業種別天気図》

業況上昇 ← → 業況下降

	製造業	食料品	パルプ・紙・紙加工品	一般機械器具	非製造業	卸・小売・サービス業	旅館・その他宿泊所	建設業
2016年4～6月期	☁	☀/☁	☁/☔	☁/☔	☁	☁	☁	☁/☔
2016年7～9月期	☁	☀	☁/☔	☁	☁	☁	☀/☁	☁
2016年10～12月期	☁	☀/☁	☁	☁/☔	☁	☁	☁	☁

※2016年4～6月期、7～9月期は前期比、10～12月期は今期比予想

《調査の概要》

- 調査目的
静岡県東部地域(富士川以東)の景気動向と先行きを予測し、主要産業の実態を把握
- 調査対象企業
静岡県東部地域に立地する企業 457社
回答数275(回答率60.2%)
※業種別企業数は4ページ図表を参照
- 調査方法
当研究所の指定した項目につき、記名式で実績と見通しを記入するアンケート調査
- 調査対象期間
実績:2016年7～9月期
見通し:2016年10～12月期
- 調査時点
2016年8～9月

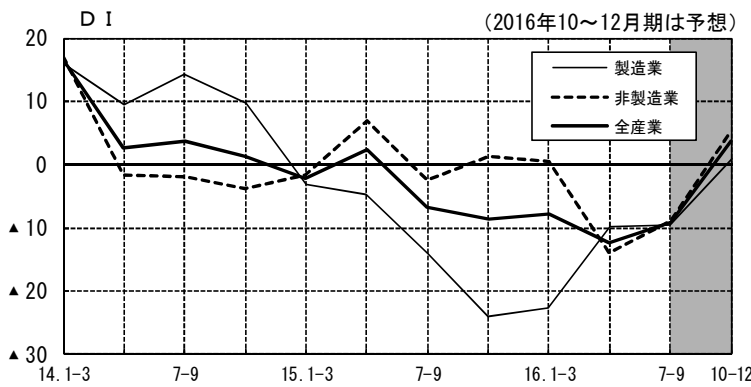
売上動向

製造業はほぼ横ばい、非製造業は上昇に転じる

2016年7～9月期の全産業の売上動向D I (対前年同期比)は▲9.1 (前期▲12.3)と2期ぶりに上昇に転じた。製造業では、一般機械器具(5.6)でD Iが前期比大幅に改善されプラス水準となったほか、金属製品(▲5.9)も上昇となったが、その他製造業(▲21.6)でD Iが大幅に低下、食料品(▲5.9)やパルプ・紙・紙加工品(▲6.3)でも低下したため、全体では▲9.5 (前期▲9.9)とほぼ横ばいでの推移となった。一方、非製造業では旅館・その他宿泊所(▲21.1)でD Iがやや低下したが、建設業(4.4)で大幅に改善され、その他小売・サービス業等(▲12.3)でもわずかに上昇したため、全体では▲8.8(前期▲13.9)と前期の低下から上昇に転じている。

2016年10～12月期の予想D I (今期比)は、全産業で3.6、うち、製造業は1.0、非製造業は5.3といずれも改善が予想され、先行きへの期待がみられる。

《売上動向の推移》



	前期	今期
製造業計	▲ 9.9	▲ 9.5
食料品	0.0	▲ 5.9
パルプ・紙・紙加工品	0.0	▲ 6.3
金属製品	▲ 26.7	▲ 5.9
一般機械器具	▲ 23.8	5.6
その他製造業	▲ 5.0	▲ 21.6
非製造業計	▲ 13.9	▲ 8.8
卸・小売・サービス業計	▲ 14.2	▲ 13.6
旅館・その他宿泊所	▲ 19.0	▲ 21.1
その他小売・サービス業等	▲ 13.2	▲ 12.3
建設業	▲ 13.0	4.4

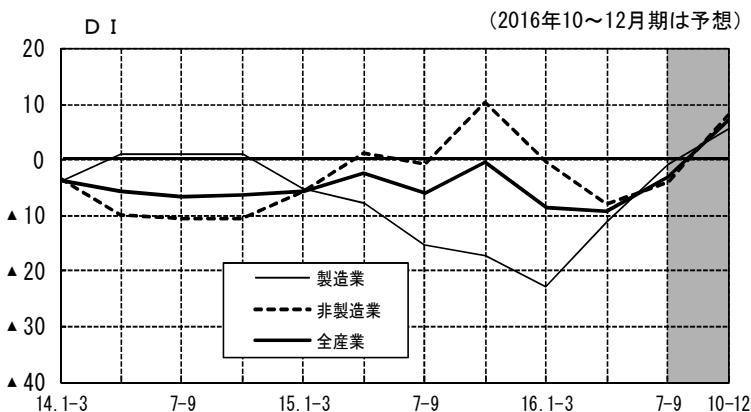
利益動向

製造業はD Iの回復基調続く、非製造業も上昇に転じる

2016年7～9月期の全産業の利益動向D I (対前年同期比)は▲2.9 (前期▲9.2)と上昇に転じた。製造業では、その他製造業(▲8.1)のみD Iが前期比低下したが、金属製品(11.8)、一般機械器具(▲11.1)、パルプ・紙・紙加工品(0.0)でいずれも10ポイント以上改善し、食料品(11.8)も上昇してプラス圏内で推移したことから、全体では▲1.0 (前期▲10.9)と2期連続で改善が進み、マイナス圏内ではあるものの回復基調が続いている。一方、非製造業においても建設業(▲2.2)でD Iが10ポイント以上改善され、旅館・その他宿泊所(10.5)やその他小売・サービス業等(▲7.5)も上昇したことから、全体で▲4.1(前期▲8.1)と3期ぶりに上昇に転じている。

2016年10～12月期の予想D I (今期比)は、全産業で7.3と回復への強い期待がみられる。業種別にみても、製造業で5.7、非製造業で8.2となり、いずれも今期比大幅な上昇を見込んでいる。

《利益動向の推移》



	前期	今期
製造業計	▲ 10.9	▲ 1.0
食料品	5.9	11.8
パルプ・紙・紙加工品	▲ 11.1	0.0
金属製品	▲ 26.7	11.8
一般機械器具	▲ 23.8	▲ 11.1
その他製造業	▲ 5.1	▲ 8.1
非製造業計	▲ 8.1	▲ 4.1
卸・小売・サービス業計	▲ 6.3	▲ 4.8
旅館・その他宿泊所	4.8	10.5
その他小売・サービス業等	▲ 8.5	▲ 7.5
建設業	▲ 13.0	▲ 2.2

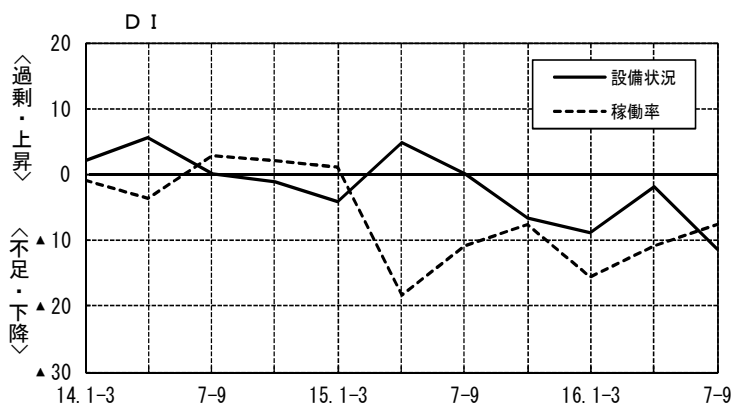
設備状況・稼働率
(製造業)

設備状況は「不足」、稼働率は前期比上昇も「下降」判断続く

2016年7～9月期の設備状況DIは▲11.4(前期▲1.8)と前期比で再び低下に転じ、不足感が強まっている。業種別では、一般機械器具(▲11.1)のみDIが前期比上昇したが、食料品(▲35.3)と金属製品(▲11.8)では大幅に低下、パルプ・紙・紙加工品(▲6.3)とその他製造業(▲2.7)も低下し、いずれも「不足」の判断となっている。

一方、稼働率DIは▲7.6(前期▲10.8)と2期連続で上昇となったが依然マイナス水準にあり、「下降」の判断が続いている。業種別ではパルプ・紙・紙加工品(▲37.5)のみ前期比DIが低下し下降感が強まったが、食料品(11.8)ではDIが改善し「上昇」の判断が継続、一般機械器具(0.0)、金属製品(▲5.9)、その他製造業(▲8.1)でもDIは前期比上昇している。

《設備状況・稼働率の推移》



設備状況	前期	今期
製造業計	▲1.8	▲11.4
食料品	0.0	▲35.3
パルプ・紙・紙加工品	▲5.6	▲6.3
金属製品	6.7	▲11.8
一般機械器具	▲14.3	▲11.1
その他製造業	2.5	▲2.7

稼働率(対常態)	前期	今期
製造業計	▲10.8	▲7.6
食料品	5.9	11.8
パルプ・紙・紙加工品	▲22.2	▲37.5
金属製品	▲13.3	▲5.9
一般機械器具	▲14.3	0.0
その他製造業	▲10.0	▲8.1

在庫状況
(製造業)

全体のDIはほぼ横ばいも、パルプ・紙・紙加工品は在庫過剰感強まる

2016年7～9月期の在庫状況(製造業)DIは7.8(前期8.2)と、前期比でほぼ横ばいでの推移となっている。全体の回答状況をみると、「過剰」の割合が15.5%で前期比横ばい、「不足」は7.8%(前期7.3%)と割合がわずかに上昇している。

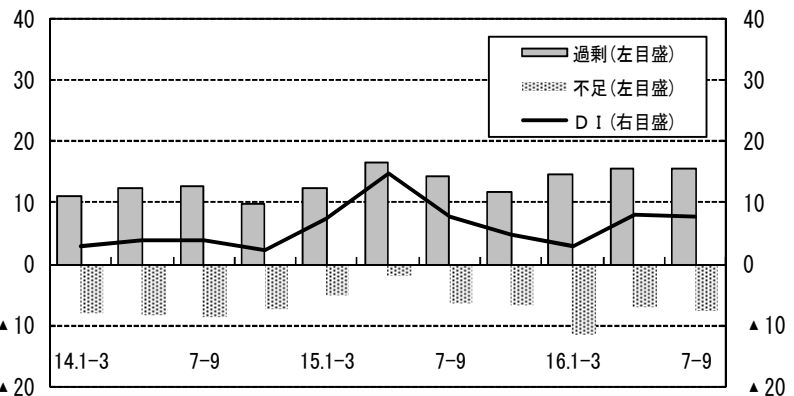
業種別では、パルプ・紙・紙加工品(25.0)で前期比大幅にDIが上昇し在庫過剰感が強まった。また、一般機械器具(11.1)も若干上昇している。一方で、その他製造業(8.3)はDIが前期比低下で在庫過剰感が後退、金属製品(0.0)も在庫は適正水準となった。また、食料品(▲5.9)は引き続き在庫不足の判断となっている。

《在庫状況》

	(前期) 2016年 4～6月期	(今期) 2016年 7～9月期
過 剰	15.5 %	15.5 %
適 正	77.3 %	76.7 %
不 足	7.3 %	7.8 %
D I	8.2	7.8

(%は回答企業の比率)

《在庫状況の推移》



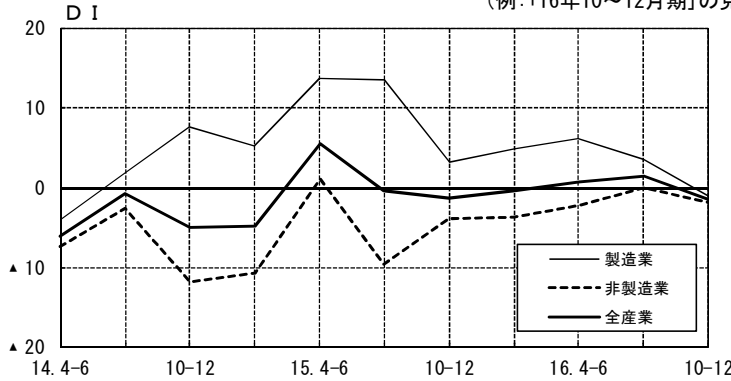
設備資金借入
動向(来期)

製造業、非製造業ともD Iが低下しマイナス水準

2016年10～12月期(来期)の全産業の設備資金借入動向(見通し)D Iは▲1.5(前期1.4)と前期比若干低下し、3期ぶりにマイナス水準となった。業種別でみると製造業では食料品(5.9)や金属製品(0.0)でD Iが前期比上昇したものの、パルプ・紙・紙加工品(▲31.3)や一般機械器具(11.1)で低下したことから、全体では▲1.0(前期3.7)と2期連続で低下した。一方、非製造業では旅館・その他宿泊所(▲5.6)で上昇したが、建設業(▲2.3)ではほぼ横ばい、その他小売・サービス業等(▲0.9)で低下したことから、全体で▲1.8(前期0.0)とマイナス水準になっている。

《設備資金借入動向推移(見通し)》

※すべて「来期の見通し」について調査
(例:「16年10～12月期」の見通しは、同7～9月期時点の調査結果による)



	前期	今期
製造業計	3.7	▲1.0
食料品	▲5.9	5.9
パルプ・紙・紙加工品	0.0	▲31.3
金属製品	▲7.1	0.0
一般機械器具	19.0	11.1
その他製造業	5.0	2.8
非製造業計	0.0	▲1.8
卸・小売・サービス業計	0.8	▲1.6
旅館・その他宿泊所	▲14.3	▲5.6
その他小売・サービス業等	3.8	▲0.9
建設業	▲2.2	▲2.3

経営上の問題点

「受注・売上の停滞・減少」「過当競争・製品安」が上昇に転じる

「受注・売上の停滞・減少」が54.5%と前期比上昇に転じ、「人材の育成」(45.1%)を上回って最も指摘が多くなった。また、「過当競争・製品安」(30.2%)も従来の低下傾向から上昇に転じている。一方で「人材の育成」、「従業員の高齢化」、「求人難」などの割合は前期比で低下したが引き続き上位にあり、人材や人件費にかかわる問題も依然として重要視されている。

《経営上の問題点(上位9項目)》

(社、%)

	16年1～3月期		16年4～6月期		16年7～9月期		順位 変動
	企業	比率	企業	比率	企業	比率	
1. 受注・売上の停滞・減少	140	49.3	137	48.2	150	54.5	↑
2. 人材の育成	114	40.1	139	48.9	124	45.1	↓
3. 従業員の高齢化	86	30.3	97	34.2	85	30.9	→
4. 過当競争・製品安	78	27.5	72	25.4	83	30.2	↑
5. 求人難	75	26.4	84	29.6	78	28.4	↓
6. 人件費の増加	73	25.7	69	24.3	54	19.6	→
7. 生産・販売能力の不足	53	18.7	58	20.4	52	18.9	→
8. 原材料・仕入商品の値上がり	57	20.1	47	16.5	40	14.5	→
8. その他経費の増加	41	14.4	34	12.0	40	14.5	↑

《業種別: 回答企業数およびD I》

※設備資金は来期の見通し、それ以外は今期実績

業種	企業数	売上動向	利益動向	設備状況	稼働率	在庫状況	設備資金
製造業計	105	▲9.5	▲1.0	▲11.4	▲7.6	7.8	▲1.0
食料品	17	▲5.9	11.8	▲35.3	11.8	▲5.9	5.9
パルプ・紙・紙加工品	16	▲6.3	0.0	▲6.3	▲37.5	25.0	▲31.3
金属製品	17	▲5.9	11.8	▲11.8	▲5.9	0.0	0.0
一般機械器具	18	5.6	▲11.1	▲11.1	0.0	11.1	11.1
その他製造業	37	▲21.6	▲8.1	▲2.7	▲8.1	8.3	2.8
非製造業計	170	▲8.8	▲4.1	-	-	-	▲1.8
卸・小売・サービス業計	125	▲13.6	▲4.8	-	-	-	▲1.6
旅館・その他宿泊所	19	▲21.1	10.5	-	-	-	▲5.6
その他小売・サービス業等	106	▲12.3	▲7.5	-	-	-	▲0.9
建設業計	45	4.4	▲2.2	-	-	-	▲2.3